【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公表番号】特表2008-537320(P2008-537320A)
【公表日】平成20年9月11日(2008.9.11)
【年通号数】公開・登録公報2008-036
【出願番号】特願2007-557066(P2007-557066)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｌ　21/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｌ　21/02　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月13日(2009.2.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
プラズマクラスタツールを設定するための方法であって、
オプション仕様からキーファイルを生成することと、
キーファイルを使用して少なくとも１つのシステム全体設定ファイルと少なくとも１つのコンポーネントレベル設定ファイルを生成し、キーファイルがプラズマクラスタツールに特に課される設定制限をカプセル化することと、
オプション定義ファイル、前記少なくとも１つのシステム全体設定ファイル、及び前記少なくとも１つのコンポーネントレベル設定ファイルのデータベースからランタイム実行可能オブジェクトを生成することと、
プラズマクラスタツールを設定するためにランタイム実行可能オブジェクトを利用することと、
を備える方法。
【請求項２】
前記オプション定義ファイルのデータベースが、前記プラズマクラスタツールのために設定できるすべての考えられるリソースについて設定情報を含む請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記キーファイルが、前記プラズマクラスタツールの設定可能性の程度を制限するデータをカプセル化する請求項１に記載の方法。
【請求項４】
前記キーファイルが前記クラスタツールと関連付けられた第１のメディアアクセスコントローラ（ＭＡＣ）アドレスを含み、
前記システム全体設定ファイルと前記コンポーネントレベル設定ファイルが、第１のメディアアクセスコントローラアドレスに一致するアドレスを持たないプラズマクラスタツール上にインストールされた場合に、ランタイム実行可能オブジェクトを生成することが阻止される請求項１に記載の方法。
【請求項５】
前記オプション定義ファイルのデータベースで設定できるリソースの少なくとも一つのサブセットが、保護されているフラグと関連付けられている請求項１に記載の方法。
【請求項６】

前記キーファイルが暗号化されている請求項１に記載の方法。
【請求項７】
非表示オプションファイルを提供し、該非表示オプションファイルが、設定オプションを特に知らされていないユーザから通常は隠されている非表示設定オプションのセットを含むことと、
少なくとも１つのシステム全体設定ファイルと少なくとも１つのコンポーネントレベル設定ファイルを生成する際に前記非表示オプションファイルを利用することと、
をさらに備える請求項１に記載の方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
システム全体の設定ファイルは、一実施形態では、設定されるクラスタツールを制御するホストコンピュータのメディアアクセスコントローラ（ＭＡＣ）アドレスを含む。ｓｙｓｃｏｎｆｉｇ．ｔｘｔファイル内にＭＡＣアドレスが存在することにより、ＵＣＴが（意図されているクラスタツールとは異なるクラスタツールと関連付けられてよい）別のホストコンピュータで実行されるときに検出が可能になる。この特長が、ユーザを間違ったクラスタツールで間違った設定ファイルを利用することから保護し、著作権侵害からＵＣＴの製造メーカを保護する。代りに、あるいは加えて、ハードディスクＩＤまたはデジタル証明書が利用することもできる。さらに、システム全体の設定ファイルは設定ファイルの予想締切日、つまりクラスタツール及び／またはこのシステム全体の設定ファイルの使用がそれ以上許可されなくなる日付を含む。ＭＡＣアドレス（及び／またはハードディスクＩＤ及び／またはデジタル証明書）及び締切日は、クラスタツール及び／またはＵＣＴのための使用許諾条件の順守を強化することを目的とする保護装置の一部を形成する。